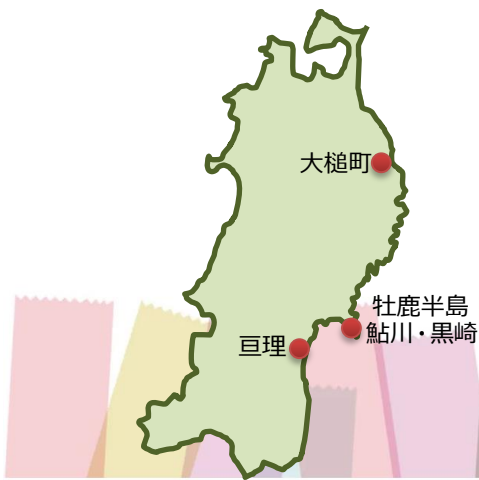


2011.3.11 東日本大震災
東北バプテスト連合

被災支援委員会 ニュースレター

「第2号」 2024年2月11日



東日本大震災から13年を数える年となった2024年1月1日、能登半島で大きな地震が起こり甚大な被害が出て、現地では今もなお救援活動が進められています。東北連合では3年前、「東日本大震災から10年『祈りとシンポジウム』」を行いました。その時、当時の現地支援委員会委員長の金丸真牧師が「私たちは『震災後』を生きているのではなく、震災と震災の間『震災間』を生きている自覚が必要です」と語りました。今も東北の被災地では福島における原発問題をはじめ、太平洋沿岸地域では継続的な復興事業が続けられるとともに新たな災害も想定されています。私たちの活動は小さな働きですが、その体験が生かされ用いられることを願っています。全国の諸教会・伝道所の皆様の祈りとお支えに感謝し、能登半島の被災された方々の上に主の慰めと守りがあることを祈り続けてまいります。

支援から交わりへ 12年目の現地報告

★2023年12月16日 大槌訪問報告

震災から12年目のクリスマスを前に大槌町を訪問し、安渡地区にお住まいのNさん(87)と1年ぶりに再会できました。大槌町では復興へのハード事業が全て完了したものの、未だ人口流失や減少の課題と向き合いながら、それでも人とのつながりを大切にしつつ、大槌町独自のにぎわいへの創出に向けて歩んでおられます。これまで小槌仮設住宅や安渡地区の人々への声掛けをしておられたNさんは、その役割を後輩へと引き継ぎをされ、来春からはコロナ後の「お茶っこ」を月2回、本格的に再開する計画があるそうです。Nさんのお連れ合いによると、大槌の特産品である「大槌サーモン」をはじめ、主要魚種が暖冬のためか不漁が続く、さらに野生鳥獣による農作物被害など地域課題も山積しているとのこと。今回は盛岡教会と南光台教会でクリスマスカードとお土産を全国諸教会の祈りと共にお届けできました。訪問の出来事が、大槌町の皆さんを「忘れていません」との励ましとなれば幸いです。

(南光台教会 田中信矢)



現在の大槌町の様子



Nさんと



仮設住宅跡地(エコハウス跡地)

★2023年8月27日 巨理町訪問報告

巨理の方から「宮前仮設住宅の同窓会をしまーす」とお誘いをいただいて、8/27(日)の午後に教会から4人で宮前仮設住宅同窓会に行ってきました。行ってみると、あの時小学生だった子が結婚して赤ちゃんと一緒に参加していたり、当時学習支援をしていた大学生が県外からかけつけていたり、あの時から変わらず元気なおばあちゃんがニコニコしていたり…。参加者も、仮設住宅の同窓会ができるなんて珍しいことだとおっしゃっていました。それくらい宮前仮設住宅は支え合いの場所だったのだと感じました。この同窓会を主催した方は、自ら被災者でありながら、被災者が安心して語れる居場所づくりの活動を巨理で始めておられました。震災からもうすぐ13年。「被災地のために一緒に働く仲間だね」と励まし合うことができる日が来るとは。さらには、あの当時小っちゃかった女の子が、来春から私が聖書の授業を担っている宮城学院高等学校に入学するとの連絡もありました!!主によって結ばれている、不思議で嬉しいつながりに感謝いたします!(仙台長命ヶ丘教会 金丸真)



宮前仮設住宅の同窓会の様子



百合丘教会と準備したクリスマスプレゼント(12月4日)

★2023年12月7日 牡鹿訪問報告(鮎川・黒崎)

震災からずっと鮎川支援を続けてきました。今回は何軒かのお宅を訪問する中で二軒のお宅でお茶を飲んでいきなさいとお誘いを受けました。自家製の沢庵漬けに卓上の調味料をたっぷりかけていただき、何十年かぶりの味に出会ったような懐かしさの中で、震災からこれまでのことをゆっくりと伺うことができました。(本当はこういう時間が大切だったんですね)

いつも伺う床屋さんではお店の中での大きなマグカップにたっぷりのブラックコーヒー。毎年差し上げているクリスマスプレゼントの鉢植えを大切にしてくださっていました。お連れ合いの出身は九十九里浜だとか。(初めて身の上話を伺いました)

さて、もう一軒のお宅では玄関に素敵なクリスマスツリーが飾られていました。でもよく見てみると、ひとつだけ雰囲気異なるオーナメントが飾られていました。「去年バプテストさんからいただいた飾りです」と。(ここにも小さなつながりが出来ていました)

酪農家の方は、震災後の牧草地の放射能被害の中で飼料を買い求めて酪農を続けてこられました。ウクライナの戦争による飼料価格の高騰の影響もあり事業の継続を断念。(牧舎では残された数頭の乳牛が静かに横になっていました)

荻浜では牡蠣剥きの最盛期。お昼時にお伺いしてご挨拶。これまで続けてきた被災地訪問に対してのお礼の言葉をいただき、「牡蠣をおぐっから、どごさとどげればいいの」と。折角のお申し出を固辞して「また来っから」と声をかけ、浜をあとにしました。(浜の人は本当に義理堅い)

(大富教会 伊東信吉)



床屋さんのお連れ合いと



クリスマスツリー



黒崎の牧草地から太平洋を望む

★2023年12月14日 牡鹿訪問報告

「バプテストさん」として、牡鹿半島の支援地全所帯への支援活動は終わりましたが、各浜の区長さん方や親しく交流させていただいている方々を訪問しました。牡鹿半島荻浜湾は世界の養殖牡蠣の80%のルーツとなる場所です。地球温暖化が懸念される中、23年夏は猛暑で海水温が上がり牡蠣や名物のホヤが大打撃を受けました。牧浜では2年後の収穫を望む稚貝の8割が死滅し、月浦の区長さんによると漁獲類がそれまで獲れなかった南の太刀魚や伊勢海老、鯛や河豚などに変わってきて困惑していると言います。漁具変更や加工流通への影響が懸念されます。そのような中、現地の道路は整備され観光や震災遺構利用にもつながり、「東日本大震災」を覚え、災害への備えを啓蒙する働きにもなっています。しかし同時に高齢化、過疎化も進み、その対策も課題となっています。支援活動は訪問交流の形に変わってききましたが、お話しを伺う中で、共に災害からの復興を目指して分かち合わせていただいた仲間として今があることを思う訪問となりました。(大富教会 小田衛)



支援活動でお世話になった食堂「かんだ」さん(左)と



支援活動で再建した給分浜バス停(ソーラー照明になりました)



東日本大震災から10年の証言集「光あれ」
在庫があります。ご希望の方は 大富キリスト教会
TEL/Fax 022-358-0930 Mail: taitomi1992@gmail.com
までお問い合わせください。